

日本福音ルーテル教会 女性会連盟 第 23 期 153 号

# 会報



総主題「共にいてくださる主を信じて」  
副主題 信仰と、希望と、愛

2016. 10. 15

発行 日本福音ルーテル  
教会女性会連盟  
〒169-0072 東京都新宿区  
大久保 1-14-14  
発行者 芳賀 美江  
編集者 柳井 悦子  
印刷 平山印刷出版

## 主題聖句

「それゆえ、信仰と、希望と、愛、この三つは、いつまでも残る。その中で最も大いなるものは、愛である。」

コリントの信徒への手紙一 13 章 13 節

### あなたへ



## かかわらなければ

広島・松山教会牧師 伊藤 節彦

塔和子さんをご存じでしょうか？  
塔さんはハンセン病のため13歳で故郷や家族から引き離され、ハンセン病隔離の離島で一生を終えた詩人です。彼女は療養所の中でキリストと出会い、35歳で受洗します。千編にものぼる詩作をしましたが、そのどれもが「生きる」という実存を問う真摯なものがあります。有名な詩の一つに「胸の泉に」

「かかわらなければ／この愛しさを  
知るすべはなかった／この親しさは湧  
かなかつた（中略）人はかかわること  
から／さまざまな思いを知る（中略）  
かかわることから始まって／かかわつ  
たが故に起こる／幸や不幸を／積み重  
ねて大きくなり／くり返すことで磨か  
れ／そして人は 人の間で思いを削り  
思いをふくらませ／生を綴る／ああ何  
億の人がいようと／かかわらなけれ  
ば路傍の人／私の胸の泉に／枯れ葉い  
ちまいも／落としてはくれない」

「かかわらなければ路傍の人」という言葉が胸に刺さります。主イエスは、「わたしの隣人とは誰ですか？」と問うた律法学者に「良きサマリア人の譬え」を語られました。傷ついた人を見ながらも通り過ぎた祭司やレビ人は路傍の人で終わりました。

一方のサマリア人は、助けを求めることもできずに呻いている目の前の人の心の叫びを感じる事ができました。この共感 (compassion)こそ、私たちが「かかわり」へと一歩を踏み出す愛と勇気の源泉ではないでしょうか。そしてこの「かかわり」の中に福音の始めがあると思うのです。なぜなら主イエスこそ、傷つき倒れていた私たちの良きサマリア人となつて下さったからです。主が私たちの悲しみや苦しみを「自分のもの」とし、全ての重荷を共に担つて下さったように、私たちもまた大胆に、それぞれの場所であ会う人々とかかわる中で、各自に与えられている賜物を活かすよう遣わされているのです。